

SY 活動の御提案 (260220)

SY 活動(成功要因共有活動)とは

「仕事が進んだ理由(成功要因)を共有する活動です。」

危険の芽を摘む KY 活動に対し、

成功の芽を育てる Safety-II の型の **個人・組織の能力向上** を目的としています。



1. なぜ必要なのか

- ・建設現場は毎日「同じように違う」環境です。
- ・天候、段取り、人員の変化が多いです。
- ・「今日も無事でよかった」で終わりがちではないでしょうか。
- ・成功の理由が共有されず、属人的になりやすいです。

→成功要因の共有は、各自・チームのレジリエンス能力(創造力+適応力)を高めます。

SY 活動のすすめ方(案)

- ① うまくいくためにした行動(調整)を「**創造する**」「**補う**」「**回避する**」※の3つの視点から思い出してみる。
- ② うまくいくための行動(調整)に至るまでの思考の流れ(状況認識→意思決定→行動→結果の考察)を整理する。
- ③ ②の思考の流れ(状況認識→意思決定→行動→結果の考察)を発表し、社員間で共有する。
- ④ 聴いた社員は、同様の思考ができるようにするためにイメージトレーニングする。聴いた社員は学び・気づきを発表する(口頭または記述で)。
※目的; 他者の経験を単なる知識としてインプットするだけでなく、自分自身の行動に結びつくところまで落とし込む。

※

「創造する」: 新しいもの・ことを、自分の考えて造り出す。

「補う」: 足りなくなったもの、足りなくなりそうなものを、代わりとなる他のもので満たす。

「回避する」: あることから生じる不結果を避けようとする。

2. 期待する効果

- ・現場の“うまくいくための行動”が見える化できる。
- ・各自の仕事のやりがい向上する。
- ・各自・チームの創造力、適応力が向上する。
- ・チームワークが強くなる。

参考図書; 『Safety-I & Safety-II』(エリック・ホルナゲル著 2024.6、2版2刷、海文堂出版)

『Safety-IIの実践』(エリック・ホルナゲル著 2025.2、2刷、海文堂出版)